

地域包括ケアネットワーク No.90

地域包括ケアシステム構築に向けた岡山市医師会の取り組み

岡山市医師会副会長 内藤 秀夫

今後の超高齢社会を見据え、岡山市医師会が岡山市と連携または委託された取り組みとして「在宅医療」「フレイル対策」「認知症対策」に関する事業がある。

まず、「在宅医療」についてはN0.57でも紹介したが、平成26年から訪問診療医の育成や支援を目的とする研修会を開催している。平成26年度は「岡山市訪問診療スタート支援研修会」を計13回、平成27年度は「岡山市訪問診療ステップアップ研修会」を計15回、平成28年度は「岡山市訪問診療スキルアップ研修会」を計9回、平成29年度は「岡山市訪問診療スキルアップⅡ研修会」を計10回と多職種合同研修会を1回実施した。また、平成30年度からは新たな訪問診療医の掘り起こしを目的として、これから訪問診療を始めようとする先生方を対象に「岡山市訪問診療支援研修会」を毎年開催している。医師・歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャーの4職種に参加していただき、医師1～2名に多職種数名からなる5～7グループを作り、事例検討やグループワークを行った。平成30年度から令和2年度までの研修内容は、「岡山市の現状と課題・在宅医療が果たすべき役割・専門職連携協働の必要性・在宅における感染症対策・在宅における特徴的な疾患とその対応方法（がん緩和ケア・看取り・心不全・肺炎）・訪問診療の実際と同行研修の意義・在宅医療の制度と診療報酬・在宅医療を推進する上での課題とその解決方法」等、即戦力を養う内容であった。令和3年度は令和3年11月8日に、のぞみクリニックの小林豊院長より「COVID-19在宅療養患者の訪問診療と訪問看護との連携」、令和4年2月10日に福渡病院の堀内武志院長より「岡山市最北の訪問診療から～地域と、地域の歴史を愛すること～」と題してご講演いただいた。また、岡山市医師会は新たに訪問診療を始める先生と既に経験を有する訪問診療医が緩やかに繋がることを目的にICTなどを介して、気軽に情報交換が行えるシステムの構築を計画している。

次に、「フレイル対策」について述べる。岡山市は平成31年度（令和元年度）より「岡山市フレイル対策事業」を開始した。高齢者が要介護状態になることを防ぐために、フレイルを早期に発見し介護予防につなげることを目的として、薬局を中心にフレイルチェック（25項目の質問と握力測定）を実施している。岡山市医師会は主にフレイルの周知広報・研修会への協力、「岡山市フレイル対策事業検討会議」にて事業課題を協議し、フレイル対策事業の推進に協力している。

最後に、「認知症対策」について述べる。岡山市医師会は、かかりつけ医が適切な認知症診療の知識・技術や認知症本人とその家族を支える知識と方法を習得するための「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の実施と、認知症の診療に習熟し、かかりつけ医へ助言その他の支援を行い、専門医療機関や地域包括支援センター等との連携の推進役となる認知症サポート医を養成するための「認知症サポート医養成研修」受講者を公募により推薦している。これにより、かかりつけ医と認知症サポート医との連携の下、各地域において、認知症の初期から状況に応じて、医療と介護が一体となった認知症の人への支援体制の構築を図っている。

新型コロナウイルス感染症の影響で事業の新たな展開が困難な状況ではあるが、アフターコロナの時代を見据え、これからも行政と連携して地域包括ケアシステム構築の一役を担う所存である。